

⑤ 楽しく計算ができるようにするために

どんな状態？

計算に時間がかかる。

問題がたくさんあると、やる気をなくす。

計算の方法は分かっているが答えが合わない。

位取りを間違えることが多い。

なぜそうなるの？

短期記憶が弱いため、繰り上がりや繰り下がりや計算の途中で忘れてしまう。

空間や位置の認識が弱いために、桁がずれてしまったり、どこを計算しているかわからなくなってしまうりする。

数の概念が身につけていない。



支援のポイント

- 数の概念が身につけていない場合には、具体物や反具体物を用いて、数字と対応させながら数を認識させる。
- 繰り上がり、繰り下がりやの数を書き込む場所を決めたり、赤ペンで書き込んだりして、忘れないようにさせる。
- 計算の手順を忘れてしまう場合には、手順を表にして掲示したり、カードにして手元に置いて、言葉で言わせながら計算させる。
- 筆算などは、大きめのマスの入った用紙を使う。
- 自分のペースで学習できる時間を確保する。

⑥ 宿題が一人でできるようにするために…

どんな状態？

宿題が出ていることを忘れてしまう。

宿題をしても、持って行くのを忘れて、出し忘れてしまう。

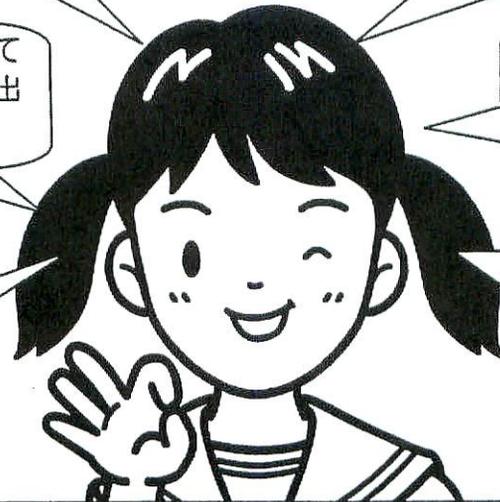
宿題が最後まで終わらない。

なぜそうなるの？

整理整頓が苦手なため、宿題のノートやプリントがどこにあるかわからない。

根気強く集中して取り組むことが苦手である。

聞いた内容を、短い時間でも記憶することが難しかったり、内容が理解できなかったりする。



支援のポイント

- 宿題の内容や量を子どもと相談して決める。
- 授業で使ったものと同じプリントや問題を宿題に出すことでやる気を引き出す。
- 宿題専用のクリアファイルを作り、その中に必ず入れさせるようにする。
- 宿題用のチェックリストを作って確認する。

⑦ 忘れ物を少なくするために・・・

どんな状態？

必要な物を用意して学校に持って行くことができない。

特別教室などへ行くとき、必要な物をそろえていくことが難しい。

学習に必要な物が準備できていないために、学習への意欲も薄れてしまう。

なぜそうなるの？

不注意であるために、メモを見ることを忘れたり、確認しながら必要なものを準備することが難しい。

短期記憶が弱いために、聞いただけでは、覚えられない。



支援のポイント

- 帰りの会の時に、明日の準備物について連絡帳を書く時間を必ず取る。
- 文字を書くことが苦手な場合は、記号で書き、記入する時間を十分取る。
- 担任がこまめに声をかけたり、周囲の子どもに支援をしてもらう。
- 1週間分の時間割をうまく見ることができない子どもには、曜日ごとに時間割を分割する。
- 時間割や持っていく物の準備ができたときは、シールをはる。
- 連絡帳を家でも見る習慣を付けさせるために、保護者に協力を依頼する。

⑧ 身の回りの整理整頓をするために・・・

どんな状態？

机の上やロッカーの中が、ごちゃごちゃになっている。

配られたプリントを机の中に詰め込んでしまう。

自分の物をいろいろな所に落とし、物をよくなくす。

なぜそうなるの？

空間、位置の認知が弱いため、どこにおけばよいのかのイメージが浮かばない。

その場で判断しながら、いくつかの作業を並行して行うことが難しい。

片付けの途中で注意がそれ、見通しを持って考えたり、計画的に行動する力が弱い。



支援のポイント

- 片付ける場所や入れ方を一つずつ具体的に教え、練習する。
- ロッカーや机に、片付ける物の写真を貼り、片付ける物と場所を視覚的に判断できるようにする。
- 自分の持ち物には、一目で分かるようようなマークを付けておく。
- 必要な物だけを机に出させ、使わない物はすぐに片付けさせる。
- 片付けの練習をさせる時には、見通しの立てやすい広さから始めて、だんだん広げていく。

⑨ 行事にスムーズに参加するために…

どんな状態？

初めての場所や行事では、緊張のため落ち着かなくなったり、ふさわしくない行動をしたりする。

やり方がすぐに理解できない。

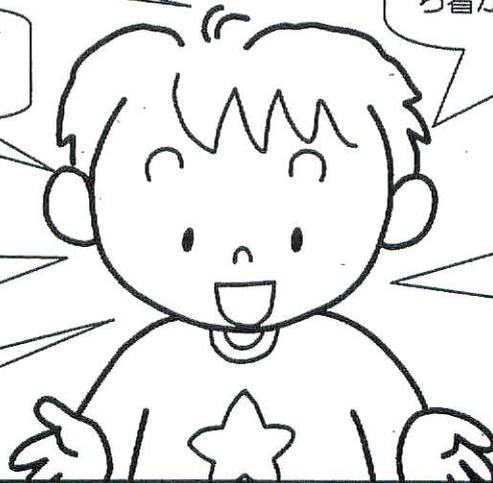
時間割の変更があると行動するのを嫌がる。

尋ねられたことに答えられない。

なぜそうなるの？

初めての経験や場所では、様子をイメージすることが難しく、先の見通しが持てないため、落ち着かなくなる。

慣れない環境の中で、ストレスが大きくなり、適応できず、行動するのを嫌がることもある。



支援のポイント

- 行事の日時が視覚的に捉えられるように、カレンダーに書いておく。
- 儀式的な行事は、リハーサルで動き方が分かるようにしたり、メモを持たせて進行が見通せるようにする。
- 達成感を重ねられるように出番を配慮したり、何かあったときに補助できるよう座席を配置するなど、参加しやすい工夫をする。
- 安心して活動できるように力を貸してくれる友だちと同じグループにする。
- 変更がある時は、事前に個別に伝える。
- 本人にかかわる変更は、できるだけ少なくする。